

2014年4月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

➤景気判断は据え置きました。

—前月の「着実に持ち直している」との判断を継続しました。

■項目別の变化点

➤住宅投資の判断を下方修正しました（その他項目は据え置きました）

項目	今回	従来
住宅投資	持ち直しの動きが一服している ※1年2か月振りの下方修正	持ち直している

■今月の注目点

～消費税増税で、景気の基調（大きな方向性）は変わったか？

①4月1日の消費税増税を境に、消費が下方屈折し始めています。消費は総需要の約6割を占める最大の需要項目です。それだけに、消費の動向は景気に大きな影響を与えます。現段階では、暫定的判断の域を出ませんが、消費に変化が出始めたのかを点検したいと思います。

—3月末までは、自動車、家電、衣料品、食料品（生鮮食料品以外の日持ちする食品や加工食品等）、日用品等の品目で、消費税率引き上げ前の駆け込み的な需要増が広範にみられました。一方、増税となった4月1日以降、これらの品目で、広範に反動減がみられています。

—大型小売店の売上げ状況をみると、3月は前年比2～3割の大幅増加となり、4月入り後は、一転、同2～3割減、中には4割減程度の落ち込みになっている品目もあるようです。

②4月以降の消費動向については、以下の2つの可能性が想定されます。

(i) 下方屈折シナリオ

家計所得（主として給与所得）が概ね横這い状態が続いています※
ので、消費税増税は実質所得の目減りをもたらします。このため、4
月以降、家計が生活防衛意識を強め、財布の紐を締めるようになれば、消費は弱含みに転じる可能性があります。 ※3頁の参考2参照

(ii) 基調維持シナリオ

家計が、先行きの景気回復（雇用や所得の拡大）への期待感等を背景
に、しっかりした消費マインドを維持すれば、これまでの消費の基調
は維持される可能性があります。

——例えば、昨年夏以降、北海道の物価上昇率は高めとなり、実質所
得の目減りが起こりました。しかし、家計の消費マインドは大き
く崩れることなく、消費については持ち直し基調が維持されまし
た。そこで、今回の消費税増税後も、これまでと同様、家計の消
費マインドが崩れなければ、消費の基調が維持される可能性があ
ります。

③現実には、上記2つのシナリオで挟まれた範囲の中を推移することになると
思われますが、増税後、まだ10日間程度しか経過していない現段階では、
正確な統計データがないうえ、消費の変化を見極めるだけの材料が十分で
ないため、確定的な判断はできません。しかし、消費関連企業からのヒア
リング情報によれば、消費の基調は崩れておらず、これまで続けてきた回
復に向けた方向感については、概ね維持されているとみてよいと思います。

——一つの判断材料は、増税前の駆け込み（買いだめ）のできない商品
である生鮮食料品の動きです。現段階では、「商品によって異なるが、
総じて前年比プラスになっている」という意見が少なくなく、消費の
基調の崩れを示唆するような話は特に聞かれていません。仮に、生活
防衛意識が高まれば、生鮮食料品でも節約志向が徐々に滲み出てくる
はずですので、少なくともこうした動きが見られない現段階では、大

きな基調変化は起きていないとみてよいのではないかとと思われます。

【参考1】大型小売店業界から聞かれる声（4月上旬時点）

①消費の基調は変化していないことを示唆する声の一例

生鮮食料品については殆ど影響はなし。

—肉類等では、商品提案の仕方次第では、前年比2桁の伸びとなる日も。
野菜類、惣菜類、豆腐、パンも前年比プラスを維持。

消費は意外に底堅い。

—総売上高（反動減の出ている日用品等も含めたベース）の前年同月比が
前年比プラスになる日がパラパラと出始めている。

②買いだめの反動減を指摘する声の一例。

買いだめ可能な商品の反動減が顕著。

—食料品（生鮮食料品以外の日持ちのする食品）、たばこ、酒類は、消費
増税後、前年比▲2～4割程度に。

日用品の落ち込みが顕著。

—トイレットペーパーとティッシュが激しく、4月入り後は、売れ行きが
急降下。

衣料品や日用雑貨は▲2～4割程度の落ち込みに。

米、調味料、酒、各種日用品・雑貨品を中心に、3月中に買いだめする動
きが広がったため、4月入り後に一挙に反動が出てきている。

【参考2】ベアの状況

- ・企業収益の増加を背景に、全国的には、大手企業等を中心に賃金等の引き上げを行う企業がみられますが、道北でベア（ベース・アップ）を行う企業は、ごく一部に止まり、ボーナス増加で対応する先が多いようです。

※網羅的な調査ではなく、ヒアリングによる限定的な情報ですので、幅をもったものとご理解下さい。

以 上